

損保会社の災害対応ノウハウ×衛星データによる自然災害検知ソリューション

- ・衛星データを中心に30種類のG空間情報を組み合わせ、全国で発生した自然災害による被害の全容を24時間以内に提供
- ・東京海上日動に集まる発災直後の被害報告や損害調査結果を活用し、建物ごとの被害を高い精度で把握
- ・東京海上日動が持つ災害対応ノウハウにより、被災地が求める「まさに、これ」という情報を調製し、復旧活動をサポート

法人・団体名

東京海上日動火災保険株式会社、ICEYE、アビームコンサルティング株式会社、株式会社スカイマティクス、矢崎総業株式会社、株式会社QPS研究所

サービス概要

本ソリューションは東京海上日動が持つデータや災害対応ノウハウと、衛星データ解析技術を融合し、自然災害発生時に迅速に生活復旧活動を強力に後押しする情報を被災地に合わせてカスタマイズするもので、以下の特徴を持ちます。

1. 30種類ものG空間情報を活用：

SAR画像・光学衛星画像をはじめとして、SNSや洪水シミュレーションなど30種類のG空間情報を統合した解析を実現しています。これにより、単一のデータに依存しない安定した体制を実現するとともに、被害の把握漏れを抑えています。

2. 東京海上日動ならではのデータで精度向上：

東京海上日動の全国の拠点・代理店より発災直後から集まる被害報告や損害調査結果を活用することで、解析結果を被害の実態にリアルタイムに整合させていきます。これにより、損害保険業務に活用できるレベルの精度を得ることができております。

3. 東京海上日動が持つ災害対応ノウハウによる「まさに、これ」という情報に調製：

これまでは発災から時間をかけて調査をせねば被害全容を分からず、発災直後は被害を過少に見積もっていたという課題に対して、発災翌日に被害件数をズバリ推定して、客観的な情報により十分な支援体制を構築できたという事例がありました。

このように、被災地が求める「まさに、これ」という情報に調製し、復旧活動を円滑に進めるようにし、被災者の生活再建を後押しできます。

本ソリューションは、現在災害支援ボランティア団体や国内企業に活用いただいています。

主なユーザー

自治体や企業で防災・災害対応に従事する方々

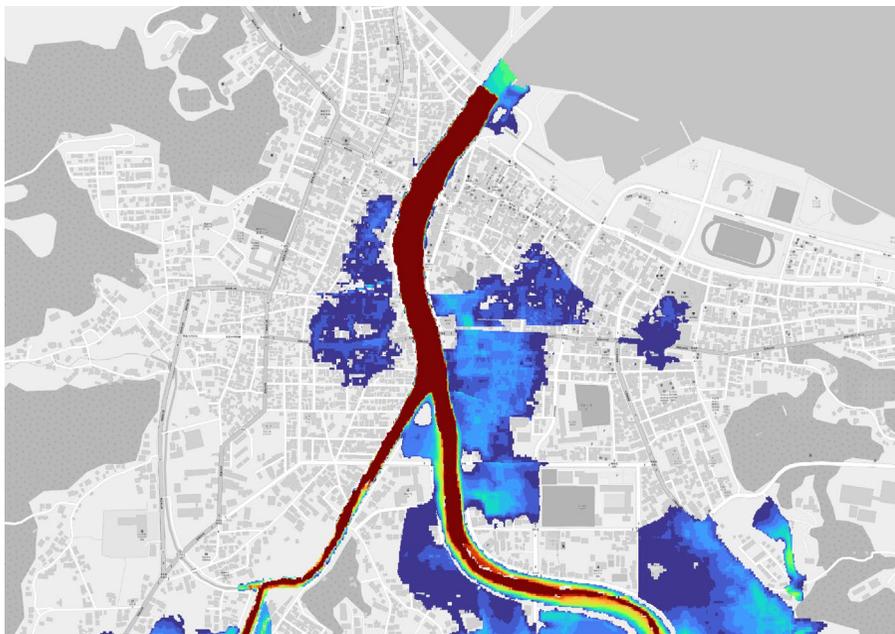
活用される衛星

・ICEYE ・ALOS-2/4 ・PleiadesNeo ・WorldView ・GeoEye ・QPS-SAR

URL

<https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

水災解析イメージ



- 氾濫による浸水域を5mメッシュで、浸水高をcm単位で解析した結果を示しています
- 浸水ピークを捉えることができれば、被害建物を80%近い精度で捕捉することが可能です

地震・津波解析イメージ

- : 全損したと判定した建物
一帯で全損被害が見られるエリア
- : 被害なしと判定した建物
被害がほとんどなかったエリア



背景画像の出典：国土地理院 平成23年東北地方太平洋沖地震
正射画像 2011年3月～2011年4月

- 光学衛星画像から建物ごとの被害有無を判定した結果を示しています
- 流失による全損被害では正解率が96%と、高い精度を得ることができました